

令和7年度第1回子ども・子育て会議 議事要旨

日 時：令和7年11月7日（金）13時30分～15時10分

場 所：村岡地域局 3階 301会議室

出席者：委員11名（3名欠席）、教育長、事務局5名

《次第》

開会

教育長あいさつ

委嘱状交付

香美町子ども・子育て会議の概要説明

会長及び副会長の選出

議題

（1）令和6年度事業計画の実施状況について

（2）第3期香美町子ども・子育て支援事業計画について

意見交換

閉会

《資料》

資料1・・・香美町子ども・子育て会議の概要

資料2・・・香美町子ども・子育て会議条例

資料3・・・令和6年度事業計画の実施状況

資料4・・・令和6年度地域子ども・子育て支援事業について

別冊・・・第3期香美町子ども・子育て支援事業計画

《議題》

(1) 令和6年度事業計画の実施状況について（事務局による説明）

■委員意見

- ・ 地域子育て支援拠点事業で、香住子育て・子育ち支援センターの実績数値が計画数値と比べ非常に少ないことの要因は。
- ・ 小学校が再編されると香住区では香住小学校1校で、放課後児童クラブは旧小学校区に残すことだが、香住で働いている保護者にとって「スマイルかすみ」を利用したい人もいることから、利用するクラブの場所は自由に選択できるか。また、そのクラブの利用者が5人いなければその子どもは利用できなくなるか。
- ・ 病児保育ですが、傷病のうち「傷（ケガ）」の場合は利用できないか。

□事務局

- ・ 香住区に対象となる子どもの数が多いと見込んで、香住子育て・子育ち支援センターの利用者数を計画していたが、実績として少ない結果となった。他の活動している子育てグループへの参加や香住区内には生後4か月の早い時期から入所できる保育所があることが要因として考えられる。
- ・ 放課後児童クラブの利用については、学校統合に関連して、香住小学校に近いクラブを利用したいとの多くの保護者からの声があれば、それに応じた提案をする可能性もある。再編後は、開設のために利用希望者5人以上を必要とするが、現在、休所している地区の子どもは、近隣の施設を利用していただくようにしている。（地元の地区のクラブ又は香住小学校隣接の「スマイルかすみ」の利用を可としている。）
- ・ 病児保育は、病気の時となっているが、困って利用を希望することを考えると、柔軟な考え方をもって、ケガの場合でも預かれる状況であれば預かるようにしたい。

(2) 第3期香美町子ども・子育て支援事業計画について

■委員意見

※意見なし

○意見交換

■委員意見

- ・ 子どもは5歳・6歳になると（個人個人に）違いがある。幼稚園や保育所から小学校に行くと「小1プロブレム」がある。集団形成ができていないなどで、小学校の先生が保育園や幼稚園の様子を見に行ったり、幼稚園や保育園の先生が入学何ヶ月後かに小学校の子どもたちの様子を見に行ったりといった小学校との連携は、どの程度やっているのか。1年生で不登校になる子がいて、特性のある子どもを早期に見つけられるよう、気を付けて見たり情報交換したりするなど連携が必要である。

- ・ 子育て・子育ち支援センターでは指導者がいて保護者もまた子どもたちと関連をもって活動されていることは良いが、子どもたちが地域に出向く機会、以前は例えば盆踊りであったり、村祭りであったりと地域に接触する機会があったが、非常に少ない。コロナで集まらない風潮が出て、いろんな催し物をカットしてきたり、活動をしている人が歳を重ね次の代に継承されていない。地域の事業を掘り起こして、地域の子どもたちを巻き込んだ活動の道がないものかと思う。
- ・ 香美町では、ふるさと学習、ふるさと教育として、公民館が主体となって、子どもや保護者、地域の人たちを巻き込んで多くの事業を実施している。長井地区では矢田川の生物調査を低学年、中学年、高学年に応じて話したり、地域の方に講師に来てもらうなど行っている。

□事務局

- ・ 香住幼稚園では、小学校の参観日やオープンスクールのときに幼稚園教諭が見学に行き、卒園した1年生がどのような教育を受け、どんな風に育っているのか、また、「わくわく交流会」で柴山幼稚園や長井幼稚園から園児が来て一緒に活動するところに、小学校の先生たちにも参観に来てもらい、その園児がどんな様子で1年生になったときにどうなるのか、を考えながら相互参観を行っている。香住幼稚園では、園児が小学校の授業や持久走を参観したり、小学校の発表会があると幼稚園に出向いてもらい交流をしている。
- ・ 今年度からすべての5歳児を対象に保護者にも来てもらい集団健診を実施している。就学前に小児科医師にしっかり診てもらい、保護者には子どもの特性を理解してもらうようにしている。

□前田教育長

- ・ 幼・小・中学校との連携については、特別支援に係る子どものサポートファイルを作成し、連携がスムーズに行われている。支援の必要な子どもの数は以前に比べ増えており、出石養護学校みかた校にも相談し、よく対応してもらっている。幼稚園でも子どもの様子をよく見ているが、完全ではなく時代の変化とともに子どもの変化も起きており、みんなが意識して取り組む必要がある。